

令和元年度

教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「広島県教師養成塾」成果報告書



広島県教育委員会

調査研究の概要

1 課題認識

- ・ 広島県の現状として教員の大量退職・大量採用が続いており、特に小学校教諭を大量採用しているため、経験の少ない若手教員の割合が増加していることから、指導力の向上を図る必要がある。平成 27 年 12 月 21 日中央教育審議会答申に示されているように、広島県においても教員養成に関する問題において、実践的指導力の基礎の育成に資するとともに、教職課程に在籍する学生に自らの教員としての適格性を考えさせるための機会として、学校現場を体験させる機会を充実させることが必要であると考ええる。
- ・ この学校現場での体験が、理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効であると考えるが、現段階で県教育委員会と大学とが一体となった教員養成の仕組みづくりは構築できていない。
- ・ 国の方針と広島県の現状と課題を鑑みた結果、広島県教育委員会として、とりわけ広島県内の小学校教諭一種免許状の取得が可能な 10 大学（以下、「指定大学」¹⁾）と連携し、早期に教員志望の大学生の育成に着手する必要があると考える。
- ・ また、広島県内の小学校は 95%以上が中山間地域を有する市町に設置されている。そのため、中山間地域で教鞭をとる優秀な教員を確保することは、広島県教育委員会の重要な責務であると捉えている。

2 研究の目的

教員志望の学生の育成に関し、指定大学及び各市町教育委員会との連携を図って実施する 3 年間にわたるプログラムが、教職課程に在籍する学生に大学で学ぶ理論と学校現場における実践の往還によって、将来、教員に採用された際の円滑な入職に結び付く実践的指導力の基礎を身に付けることに有効であるかを検証する。また、中山間地域をはじめとした広島県の教育を担う人材の育成に資するプログラムであるかを検証する。

3 調査研究の成果目標

- ・ 大学新卒の新規採用者のうち本事業におけるプログラム修了者は、それ以外の大学新卒の新規採用者と比較すると、円滑な入職を果たし、指導力・使命感・意欲等が高い。
- ・ プログラム開始（入塾）時に比べ、プログラム修了（卒塾）時には、中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲が増している。

<指標>

特別評価の換算点の平均点が、未修了者の平均点の 110%以上である。

採用から 10 月経過後に行われる特別評価における換算点（180 点満点）について、修了者と未修了者との平均点を比較する。

プログラム修了（卒塾）時における中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲の高さの平均値が、プログラム開始（入塾）時の平均値の 120%以上である。

プログラム開始（入塾）時、修了（卒塾）時に、それぞれ同じアンケート²⁾による調査を行い、興味・関心、意欲の高さを 5 段階評価で点数化した合計点の平均点を比較する。

4 主な事業内容等

実施日	事業内容等
8月25日(日)	説明会(西部会場及び東部会場の2会場)
9月2日(月)～6日(金)	入塾申込書受付期間
9月8日(日)	【集合研修 - 3年次生対象】
9月29日(日)	【集合研修 - 2年次生対象】
10月13日(日)	【集合研修 - 1年次生対象】 ・中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲に関するアンケートを実施
11月3日(日)	【集合研修 - 1年次生対象】
11月24日(日)	【集合研修 - 3年次生対象】
12月15日(日)	【集合研修 - 3年次生対象】
2月17日(月)～2月28日(金)	実地研修校訪問
2月26日(水) ～3月11日(水) 2月26日(水)のみ実施	【集合研修2年次生対象】 2月26日(水)のみ実施 中山間地域の学校訪問 【集合研修1年次生対象】 中止 中山間地域の学校訪問
3月12日(木)～3月25日(水)	指定10大学訪問
3月22日(日)	【集合研修 - 3年次生対象】 中止

中止の理由は新型コロナウイルス感染症対策。

令和元年度広島県教師養成塾における事業内容の具体

研究目的を達成するために、本事業では、塾生が一堂に集まって実施する集合研修と塾生一人一人が各学校において実施する実地研修を相互に関連させ振り返ることができるよう、内容を関連するように実施した。

1 集合研修

(1) 1年次生

日時・場所等	目的	内容
【 - 】 令和元年10月13日(日) 10:00～16:00 広島県社会福祉会館	実地研修を実施する前段階として、実地研修等の目的やマナー及び児童との接し方について学ぶ。	入塾式 オリエンテーション 実地研修及び学校インターンシップについて 授業参観等の視点について 児童の手本となるマナー講座 児童の発達段階に応じた対応 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】 令和元年11月3日(日) 10:00～16:00 広島県立教育センター	広島県教育施策を踏まえて、小学校教員がどのような思いをもって児童と学びあ	オリエンテーション 広島県の教員の一日 (広島県教育施策を踏まえて) 小学校教員の魅力とやりがい

	っているかを学んだり、小学校教員ならではの魅力を改めて実感したりする。	グループ協議 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】中止 (実施予定会場) 庄原市立山内小学校会場 大崎上島町立東野小学校会場 江田島市立中町小学校会場	中山間地域の学校を訪問することを通して、地域の特色を生かした学校教育についての見識を広げ深める。	開会行事及び挨拶 研修校における教育概要及び取組について 午後からの研修について 児童との交流活動 清掃活動 授業参観 まとめ(授業参観を振り返って) 閉会行事及び挨拶

集合研修(-)では、実地研修を実施する前段階として、社会人としての基本的な礼儀、マナーや児童の発達段階に応じた対応の在り方を、実地研修の留意点等をロールプレイを取り入れた講義やグループ協議形式で実施し、実地研修の意義や目的についての理解を図った。

集合研修(-)では、県立教育センターの指導主事や安芸太田町教育委員会教育長を招聘し、広島県の小学校教員の一日のスケジュールや仕事の魅力、やりがい、各地域で推進している教育研究等について、具体的な講話・協議等を実施し、実地研修でどのように学び、何を習得し深めていくのかについて考えを広げる内容とした。

集合研修(-)は、新型コロナウイルス感染症対策のために中止した。

実地研修

実地研修では、県内の小学校において、児童とのふれあい活動、授業観察やその補助、学校行事の運営補助などの活動を行わせた。ただし、3月2日(月)以降の実地研修については、新型コロナウイルス感染症予防のための県内小学校の休校措置に伴い、中止した。

(2) 2年次生

日時・場所等	目的	内容
【 - 】 令和元年9月29日(日) 10:00~16:00 まなびの館ローズコム	授業づくりや地域と連携した学校教育の在り方等についての理解を深める。	オリエンテーション 授業づくり ・学習指導案作成の基礎 ・発問、ノート指導、板書等 保護者からのメッセージ~期待に応え信頼される教員とは~ 実地研修に向けて 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】 令和2年2月26日(水) 10:30~16:15 東広島市立板城小学校 その他神石高原町立三和小学校会場、府中市立	中山間地域の学校を訪問し、優れた授業を参観すること等を通して、地域の特色を生かした学校教育についての見識を広げ深める。	開会行事及び挨拶 研修校における教育概要及び取組について 午後からの研修について 児童との交流活動 清掃活動

府中学園会場は中止。		授業参観 まとめ（授業参観を振り返って） 閉会行事及び挨拶
------------	--	-------------------------------------

集合研修(-)では、県立教育センターの指導主事やPTA会長、市の教育委員の経験のある大学教員を招聘し、授業づくりや地域と連携した学校教育の在り方等について、講義や演習、グループ協議形式で実施し、板書や発問の基本等の授業づくり、地域に開かれた教育課程等についての理解を図った。

集合研修(-)では、県内3つのブロックに分かれて、実地研修校以外の山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の学校を訪問し、指導教諭の授業を参観することで、地域の特色ある教育活動、優れた授業の在り方を学べる内容としたが2月26日(水)実施の集合研修以外については、新型コロナウイルス感染症対応による県内小学校の休校措置に伴い、中止した。

実地研修

実地研修では、県内の小学校において、「授業の工夫」「地域の魅力」を見つけるという課題意識をもって授業の参観、補助、学校行事の補助等の活動を行わせた。

(3) 3年次生

日時・場所等	目的	内容
【 - 】 令和元年9月8日(日) 10:00~16:00 広島県社会福祉会館	模擬授業に向けて、国語科、算数科の授業づくりについての理解を深めるとともに、教材研究を行う。	オリエンテーション 授業づくり（国語科、算数科） 模擬授業に向けて 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】 令和元年11月24日(日) 10:30~16:15 まなびの館ローズコム	模擬授業に向けて、広島版「学びの変革」アクション・プラン等を踏まえた授業づくりについての理解を深めるとともに学習計画等を作成する。	オリエンテーション 授業づくり ・「基礎・基本」の定着に向けた取組 ・「課題発見・解決学習」の授業づくりに向けて 模擬授業に向けて 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】 令和元年12月15日(日) 10:30~16:15 県立教育センター	模擬授業を実施し、授業づくりについて実感的に理解するとともに、学習計画等を改善する。	オリエンテーション 模擬授業1と協議 模擬授業2と協議 本日の振り返り及び諸連絡
【 - 】 令和2年3月22日(日) 県立教育センター 中止	広島県教師養成塾での研修を振り返り、自身の実践的指導力の実態を認識し、今後の大学での学びの見通しをもつ。	オリエンテーション 1年間を通してのまとめ 未来の先生へ 卒塾式

集合研修(-)では、県立教育センター指導主事を招聘し、国語科、算数科の授業づくりについて、講義、演習形式で実施し、理解を図った。また模擬授業に向けたグループ協議を実施

し、教科のねらいを踏まえた教材分析の方法の理解を図った。

集合研修()では、県立教育センター指導主事を招聘し、広島版「学びの変革」アクション・プラン等を踏まえた授業づくりについて、講義、演習形式で実施し、理解を図った。また模擬授業に向けたグループ協議における各グループのチューターとして招聘し、学習計画、発問、板書等の理解を図った。

集合研修()では、県立教育センター指導主事を模擬授業、グループ協議のチューターとして招聘し、模擬授業、模擬授業についての協議を実施し、発問、切り返し等の授業技術、児童の実態把握等の理解を図った。

集合研修()は新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

2 実地研修

塾生の希望に応じ、広島市を除く県内 22 市町のうち、20 市町教育委員会が所管する小学校で実施した。児童とのふれあい、授業観察及びその補助等を通して、児童の変容・成長を肌で感じ見取ることができるよう、本研修は約 2 年間という長期間、同一校で実地研修を行うこととした。

市町別研修生配置数

市町名	研修校数		研修生数		市町名	研修校数		研修生数	
	2 年次生	1 年次生	2 年次生	1 年次生		2 年次生	1 年次生	2 年次生	1 年次生
福山市	5	9	9	13	安芸高田市	1	3	3	3
呉市	4	5	4	5	安芸太田町	0	0	0	0
大竹市	2	1	2	1	北広島町	1	1	1	1
東広島市	3	4	3	6	三原市	2	3	2	5
廿日市市	8	5	10	8	尾道市	1	5	1	6
江田島市	2	2	2	2	府中市	2	3	3	3
府中町	0	2	0	2	世羅町	0	0	0	0
海田町	2	3	2	4	神石高原町	1	0	1	0
熊野町	3	2	3	2	三次市	1	1	1	1
坂町	1	3	1	4	庄原市	0	2	0	2
竹原市	1	1	1	1					
大崎上島町	0	0	0	0					

実地研修の受入校が塾生に対し効果的な研修を実施するために、広島市を除く 22 市町教育委員会や各教育事務所等に本事業の担当者を位置付け、本事業の目的を共有し方向性を揃えた。

新型コロナウイルス感染症対応による休校に伴って実地研修が終了できなかった者以外、1 年次塾生、2 年次塾生ともに実地研修を終えることができた。

3 各研修の成果（ ）と課題と今後の対応（ ）

【集合研修】

民間、県立教育センターの指導主事及び安芸太田町教育委員会教育長、大学教員を講師に招聘するなど、高い専門性をもつ多様な人材を活用することを通して、発達段階に応じた児童との接し方、広島県の小学校教員に求められる資質・能力、中山間地域の地域と連携した教育活動等について深く学ぶことができた。中でも、安芸太田町教育委員会教育長による東京大学と連携した教育研究についての講義では、中山間地域の小規模校が全国に発信している状況を学ぶことで、中山間地域の教育のポテンシャルを理解することができた。

指定大学の講義の状況、講義での塾生の状況、広島県教師養成塾での塾生の状況について連携し、大学側から助言をいただくことで、塾生の実態、大学の講義とのリンクを図った研修内容に変更することができた。

集合研修 - は、3つのグループに分けて、山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の小学校で実施する予定であった。集合研修で扱う内容であった学校の見方、授業の見方については、大学で実施可能な自主研修課題を作成し配付した。

集合研修 - は、3つのグループに分けて、山や海に囲まれた自然豊かな中山間地域の小学校で実施する予定であった。3会場中、1会場のみ実施した。集合研修 - で授業づくり、地域と連携した教育活動について学んだ上で作成した「授業の工夫」「地域の魅力」についてのレポートを持参させた。レポート作成を通して、授業づくりや地域の特色を生かした教育活動について自分なりの考えをもった上で、指導教諭の授業を参観し、他の塾生と交流したため、協議に具体性と深まりが見られた。中止した会場に参加予定の塾生には資料を送付し、大学での自主研修を促した。3年次に向けてさらに学んでいく意識が高まった。

同じ目標や志をもった他大学の学生と交流するグループ協議の時間を多く設定した。各大学で学んだこと、各実地研修校で学んだことを交流することで、新たな視点を得たり、考えを深めたりすることにつながっている。また改めて小学校教員になりたいという思いを強くしている。指定大学での聞き取りによると、塾生が他大学の塾生の言動に刺激を受けているということであった。



新型コロナウイルス感染症対策のために集合研修の一部を中止した。中止した集合研修については、自主研修課題を作成し大学を通じて塾生に配付することとした。来年度以降、塾生が実施した自主研修課題について事後指導を行うこととしている。

塾生の実態を指定大学と連携しながら的確に把握し、研修内容を系統的・段階的につなげるとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら教員としての資質能力の育成を図ることができる研修内容へとさらに工夫していく。

大学内において教師養成塾で学んだことを還元・普及させるために、塾生の理解を深める機会としての意義、塾生以外の学生の意識を向上させる機会としての意義について大学の理解を促し、発表する場を多く設定していただくよう依頼する。塾生の発表内容についても、要望があれば教育委員会として指導を行っていく。

【実地研修】

塾生を受け入れてくださっている市町教育委員会や受入校の管理職等から、塾生の様子や研修内容等について聴取することを通して、次年度（令和2年度）に向けた改善等を行うことができた。

実地研修受入校に配付する資料において、大学1年次は参観中心となっているが、塾生の状況に応じて学習指導の補助等をさせてもよいこと、大学2年次は体験活動等に積極的に参加することを明記したところ、1年次から学習指導の補助等をする学生が増えた。

実地研修を受け入れていただいている小学校からは「担当教諭の人材育成に有効である。」「子供と触れ合ってくれるということで、児童が喜びを感じている。」など、塾生の成長だけでなく、学校にとってもメリットがあるという高評価を得ることができた。また、礼儀・マナー、服装、言葉遣いといった接遇についても時間、場所、機会等に応じた言動をすることができ、児童の手本となっているなど評価を得ている。

塾生自身が自らの適性を考える研修の場となっている。児童に確かな学力を身に付けさせるための準備（教材研究等）や児童一人一人に寄り添った声掛けや丁寧な対応を観察したりする中で、自分の適性を判断し、大学に相談した上で、退塾し、新たな進路に向けて取り組みを始めた学生がいた。

塾生には児童の変容や成長を実感してもらうため、原則2年間同一校で研修を実施している。調査研究の目的の一つでもある、広島県の中山間地域をはじめとした広島県の教育を担う人材を育成していくために、地域を学習内容とした体験活動等に積極的に参加させる。

募集人数の制限はあるが、可能な限り多くの学生に入塾してもらうため、令和2年度の説明会において、令和元年度の1年次、2年次の塾生に参加してもらい、本事業に参加して自分の成長につながったことや強く心に残ったこと、後輩にアピールしたい本事業の魅力、広島県の中山間地域をはじめとした広島県の教育などを内容としたプレゼンテーションを行う。

アンケート調査

1 アンケート作成の意図

広島県の中山間地域での教育に対する興味・関心、意欲等が、大学1年次と大学3年次とを比較し、集合研修や実地研修等を通じて、どのように変化していくのかが分かるよう、行動面と教育内容の理解の2つの側面から調査できるアンケートとなるよう作成した。

2 アンケート結果の概要

平成 29 年度入塾生に対し入塾時（平成 29 年 10 月）に中山間地域での教育に対する興味・関心，意欲に関するアンケート調査を実施したところ，5 段階評価で平均が 1.2 であった。同じアンケートを平成 29 年度入塾生に対し卒塾時（令和 2 年 3 月）実施したところ 5 段階評価で平均が 3.3 であった。また入塾時は各アンケートの自由記述欄について空欄の者が多かったが，卒塾時はほとんどの塾生が具体的に記述していた。

3 アンケート記述内容の具体

塾生は広島県教師養成塾を通して，教員のイメージ，授業のイメージを具体化し，目指す教員の姿を明確にし，教員になるという志を高めていった。将来，広島県内の教員として，どのようなことを取り組んでいきたいか，という問いに対する記述内容としては次のようなものがあった。

将来，広島県内の教員として私は，広島県の歴史や伝統，土地，産業などの特色を生かした教育活動の充実に積極的に取り組んでいきたいと思います。子どもたちにも広島県に愛着と誇りをもって大きくなってもらいたいですし，学校と地域が一体となって教育することにより，子どもたちも安心して生活でき，学校生活も日常生活も楽しく充実したものになると思います。なので，子どもたちと身近な地域についての課題を解決していく活動を通して，唯一無二のかけがえのない体験ができるように，まずは教員自身が，広島県のことについてもっと知る努力をしていきたいです。

また，広島県は日本一の教育県を目指しているということがとても印象に残っています。私も学んで良かったと思える日本一の教育県の一員として携わりたい，他の県の模範となるような教育をしたいと思いました。

その地域にしかない良さやその場所でしかできないような体験活動を行っていきたい。その中で，地域の愛着や主体性を育てて，将来子供達が，自分の町や地域を自慢に思えるように取り組んでいきたい。又，学校の中で学習を終わらせるのではなく，実生活，地域等で生かすことができる学習を行っていきたくと思っています。

広島県が推進する「課題発見・解決学習」を軸に授業に取り組みたい。教育実習を通して，解き方や用語だけを教えるような授業では，児童たちは楽しく授業に取り組めないと感じた。改善するためには，児童自ら疑問を持ち，課題を解決していくような主体的学びが必要だと思う。児童が楽しいと思えるような授業ができるよう教材研究に取り組みたい。

まとめ

1 教員を志す学生の育成における県全体の機運の高まり

- ・ 実地研修の受入校が塾生に対し効果的な研修を実施するために，広島市を除く 22 市町教育委員会や各教育事務所等に本事業の担当者を位置付け，一同に介しての説明会を実施し，本事業の目的を共有し方向性を揃えた。このことにより，県教育委員会と関係教育機関との連携が深まり，県全体として学生を育てていくという機運が高まった。

2 塾生及び指定大学における意識の変容

- ・ 集合研修において有識者，県立教育センターの指導主事及び安芸太田町教育委員会教育長を講師に招聘するなど，高い専門性をもつ多様な人材を活用することにより，塾生は教職に関するイメージがより明確になった。
- ・ 塾生は「何を学び，今後大学でどのように学びを深める必要があるか」などについて考え，大学内で還元・普及することとしているが，大学の講義において広島県教師養成塾の塾生が積極的に発言，活動等している。

- ・ 指定大学からは、「児童の手本となるマナー講座等，教職のみならず社会人としての基礎力を身に付ける内容が充実している。」「集合研修の内容が大学の講義を補完する内容となっている。」ことから，大変有意義な研修である，との声を聞いている。

3 本事業のプログラム改善に向けた取組

- ・ 入塾時と卒塾時の塾生の変容等を検証するためのアンケートの入塾時の回答や塾生の意欲的な様子を踏まえ，次年度（令和2年度）大学1年次，大学2年次における研修計画・内容を塾生の実態に応じた研修内容に修正した。
- ・ 各市町教育委員会と連携し，県教育委員会担当者が実地研修校を訪問し，塾生の様子や受入校の思い等を聴取することを通して，次年度（令和2年度）に向けた改善を図ることができ，塾生が実地研修で児童と交流することを通して，学校に活気がもたらされ，学校と塾生の双方にとって意義深い研修となっているといった声を多数聞くことができている。

注釈

1)指定大学

広島県内の小学校教諭一種免許状取得可能な以下の10大学を示している。

- ・比治山大学，広島修道大学，広島女学院大学，広島大学，広島都市学園大学，広島文化学園大学，広島文教大学，福山市立大学，福山平成大学，安田女子大学

2)アンケート

集合研修において，研修生に対し，中山間地域での教育に対する興味・関心，意欲に関するアンケートを実施した。以下アンケートの内容を示す。

- 1 広島県内（広島市を除く。以下，同じ。）の小学校のホームページを閲覧したことがありますか。
- | 【回答欄】 | |
|-------|----|
| ある | ない |
- (どちらかに○)

1で「ある」と回答した方は2，3に回答してください。1で「ない」と回答した方は4へ進んでください。

- 2 何校程度閲覧したことがありますか。
- | |
|-----|
| 校程度 |
|-----|

- 3 ホームページを閲覧しようと思ったきっかけは何ですか。また，閲覧した学校の教育活動の目的や内容を知ってどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

- 4 広島県内の小学校における特色ある教育活動を知っていますか。
- | | |
|----|-----|
| はい | いいえ |
|----|-----|
- (どちらかに○)

4で「はい」と回答した方は5に回答してください。4で「いいえ」と回答した方は6へ進んでください。

- 5 あなたが知っている特色ある教育活動は何ですか。また，そのような教育活動を知ってどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

- 6 広島県内の小学校（出身小学校に立ち寄った場合（恩師に会いに行くなど）や実地研修で訪問した場合を除く。）に，何か目的をもって訪問したことはありますか。
- | | |
|----|----|
| ある | ない |
|----|----|
- (どちらかに○)

6で「ある」と回答した方は7に回答してください。6で「ない」と回答した方は8へ進んでください。

- 7 訪問した目的は何ですか。また，訪問してどのような考えを持ちましたか。(自由記述)

- 8 将来，広島県内の教員として，どのようなことを取り組んでいきたいですか。(自由記述)

アンケートによる5段階評価の方法

中山間地域での教育に対する興味・関心・意欲を，行動面における因子と教育内容等の理解における因子により，次の5段階で評価する。

記述式	2択式	3項目が 「ある」又は「はい」	2項目が 「ある」又は「はい」	1項目が 「ある」又は「はい」	3項目が 「ない」又は「いいえ」
11点～12点		5			
9点～10点		4	4		
6点～8点			3	3	
4点～5点		3	2	2	
3点以下		2		1	1

記述式項目における評価規準

項目3

評価	換算点	規 準
A	3	学校の様子に関することや，学校の教育活動に係る記述が単に感想だけでなく，内容の考察や内容に対する自分の意見も見られる。
B	2	学校の様子に関する記述に加え，学校の教育活動に係る記述もある。
C	1	学校の様子に関する記述が中心で，学校の教育活動にまで触れていない。

項目5

評価	換算点	規 準
A	3	知っている教育活動について，それぞれの教育活動の意義を踏まえた記述に加え，内容の考察や内容に対する自分の意見も見られる。
B	2	教育活動について，それぞれの教育活動の意義を踏まえた記述がある。
C	1	教育活動の羅列に留まっている。

項目7

評価	換算点	規 準
A	3	目的意識をもった訪問となっており，得たものについての具体的な記述があることに加え，訪問校の課題や，自分の意見も見られる。
B	2	目的意識をもった訪問となっており，得たものについての具体的な記述がある。
C	1	知見を広げるための見学程度の訪問に留まっており，感想程度である。

項目8

評価	換算点	規 準
A	3	やりたいことについて，県教委の取組や，学校の所在する地域の特色を踏まえた上で，その目的や方法までの記述がある。
B	2	やりたいことについて，その目的や方法までの記述がある。
C	1	やりたいことの羅列に留まっている。

4) 広島版「学びの変革」アクション・プラン

広島県教育委員会では、学習者を基点とする能動的で深い学びである「主体的な学び」を促す教育活動を推進するため、平成26年12月に「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、先進的に取組を進める学校を指定して研究を重ねている。

詳細はこちら <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/global-manabinohenkaku-actionplan/>